

第43回東海外来小児科学研究会のご案内

皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。
この度下記の要領にて第43回東海外来小児科学研究会を開催します。(現地のみ)
医療従事者であれば、職種を問わずどなたでも参加可能です。
多数のご参加をお待ちしております。

【開催要綱】

日時：令和7年11月24日(月 祝日代休日)
会場：愛知県産業労働センター ウィンクあいち
9F大会議室 (WSは小会議室も利用)

〒450-0002 名古屋市中村区名駅4丁目4-38
TEL: 052-571-6131 FAX: 052-571-6132
<http://www.winc-aichi.jp/>



<プログラム>

【シンポジウム 午後1:20~2:20】

小児科の日常診療を考える エキスパートに問う

1. 「実地医家へ 抗菌薬・抗ウイルス剤の実践的な使い方」

藤田医科大学 小児科学 吉川哲史先生

2. 「吸入療法・本来の効果を発揮させるためには」

藤田医科大学 ばんたね病院 総合アレルギーセンター 小児科 近藤康人先生

3. 「小児科における処方設計～薬剤師から見た理想的な処方箋とは？」

すずらん調剤薬局 上荷裕広先生

処方箋は、医師が診断の結果から治療上必要であると考えられる薬剤を組み合わせで検討されます。お子さんへの処方箋ですので、服薬アドヒアランスが向上するように工夫もされていると考えます。今回のシンポジウムでは、小児科の門前薬局薬剤師として長年調剤に携わってきた経験から、一薬局薬剤師の独断と偏見で意見を述べさせていただきたいと思っております。処方箋を組まれる際の工夫や、患者指導をより円滑に行うための組み方など、少しでも処方設計にお役立ていただければ幸いです。

全演題終了後 15 分間総合討論

【ワークショップ 午後2:45~4:45(120分)】

WS1. 感染症診察室の温度差に目を向ける！

リーダー: 貝沼内科小児科 貝沼圭吾先生

サブリーダー:たかだアレルギーとこどものクリニック 高田 聡先生

みなさん、毎日たくさんの風邪を引いた子どもたちと保護者に向かい合っていることと思います。ひと昔の日本であれば、「風邪だねー、薬だしておくよ」で診察は丸く収まっていたと記憶していますが、現代においてこんな言葉だけで片付けると、とんでもないことに繋がりがねない時代になってきました。

「ウィルス抗原検査をできる限りしてください」、「おくすりは2回にしてください」、「抗生剤をください」などなど、患者さんのニーズと、医療者側の認識はずれているところがたくさんあるのではないのでしょうか。

今回のワークショップでは、こうした感染症診察室で生じるズレに着目しながら、日常的に感じている保護者の心理的ストレスや医療のプロフェッショナルとしての矜持のバランスなども触れながら、現代における小児科クリニックにおける感染症診察室のあり方について、議論を進めることができれば幸いです。

事務、看護師、医師、その立場によっても、求められるニーズは異なっていることと思います。是非多様な意見を持ち寄りながら、理想の診察室風景を思い浮かべる時間になればと思います。

WS2. 効果的な服薬指導、上手な軟膏の使い方

リーダー:すずらん調剤薬局 上荷裕広先生

サブリーダー:三重大学看護学部 母性小児看護学講座 准教授 村端真由美先生

効果的な服薬指導～上手な軟膏の使い方～

患者への効果的な服薬指導・外用薬指導とは、患者が処方・調剤されたくすりを正しく適切に用いて、疾患の治癒・寛解に導けるもの…つまり小児においては子どもが薬を飲もうとする意欲を高め、養育者においては薬を飲ませようとする意欲を高められる指導であると考えます。そこで当WSでは効果的な服薬指導とはどのようなものなのか？さらにはアトピー性皮膚炎における上手な軟膏の使い方について参加者の皆さんと検討したいと考えます。

WS3. 診療所の災害対策 リスクマネジメントを考える

リーダー:玉垣医院 看護師 塩治 由貴さん.

サブリーダー:医療法人徳田内科 徳田ファミリークリニック 徳田玲子先生

近年、小児を取り巻く災害リスクのうち、地震・津波災害リスクに対する対処法の確立が喫緊の課題となっている。特に、東海地方では、「南海トラフ地震」への対応が重要視されている。大規模災害生起時には、地域の基幹病院のみならず、地域に根ざした医院においても、小児を守る体制整備が求められる。当院では「医院でできる防災」をテーマに、①災害発生直後の診療継続性の確保、②スタッフや患者家族との情報共有、③小児に特化した防災物品の準備、について重点的に検討してきた。

当日は、特に小児患者が安心して避難・受診できることを目的に開発した「小児用防災リュック

ク」について報告する。リュックの内容物は、発達段階に応じた衛生用品（紙おむつ、母乳代替品、哺乳瓶）、栄養補給食、娯楽品（絵本・ぬりえ）、医療情報カードなどである。

また、リュックの軽量化やアレルギー対応食品の選定など、実際の家族からのフィードバックを反映させた。

今回のワークショップでは、具体的な「医院としての防災対策」、「小児用防災リュックの開発を通じて得られた知見」を共有したいと考える。参加者が各現場に持ち帰り、実践可能な小児防災における、具体的なヒントとなることを期待する。

<参加費用>

	医師	メディカルスタッフ
日本外来小児科学会 会員	¥3,000	¥1,500
非会員	¥3,500	¥2,000

当日参加にも対応いたしますが現金支払いのみになります。

当日参加費は学会員・非会員を問わず医師¥4,000、メディカルスタッフ¥2,000です

WS 参加希望者は研究会参加登録後に WS 参加登録をお願い致します。

「研究会参加登録リンク」

<https://t.livepocket.jp/e/toukaigairai2025>



「WS 参加登録リンク」（研究会参加登録後の申し込みとなります）

<https://forms.gle/HpSjXerkgcDkQbM3A>

